

1. 世界恐慌の始まり

- (1) 資料Ⅰは、1930年代のアメリカの失業者のバラック群の様子です。このような場所が出現した理由を説明してみよう。

資料Ⅰ 失業者のバラック群



(例) 1929年、ニューヨークで株価が大暴落したことをきっかけに工業生産が激減し、銀行の倒産が相次ぎ、街に失業者が出たため。

- (2) アメリカの株価が暴落した背景を、当時の世界経済の状況から説明してみよう。

(例) 第一次世界大戦後、アメリカは世界一の経済力を持つ国となったが、ヨーロッパ諸国の経済が回復し、インドや中国の工業が発達してくるとアメリカの製品が売れなくなったため。

2. 日本の不景気

- (1) 第一次世界大戦後の日本の政治・経済の動きをまとめた表の①～③に当てはまる語句を記入してみよう。

時代	年	主な動き
大正	1923年	関東大震災が起こる。
	1925年	治安維持法が制定される。
昭和	1927年	不景気により【① 金融恐慌】が起こる。
	1930年	・世界恐慌の影響により、日本経済は大きな打撃を受け、【② 昭和恐慌】となる。 ・浜口雄幸首相が狙撃される。
	1931年	北海道や東北地方で【③ 冷害】が起こる。

資料Ⅱ

預金を下ろそうと銀行に並ぶ人々



- (2) 「時代」の欄に時代を区分する線を引き、それぞれの欄に時代名を記入してみよう。
 (3) 資料Ⅱは、年表の①に関連した様子です。人々が銀行に押し寄せた理由を考えてみよう。

(例) 銀行が倒産すると預金を下ろせなくなると聞いた人々が銀行に押し寄せた。

- (4) ③に関連し、農村で起こった問題を挙げてみよう。

(例) 食糧難が深刻になり、借金返済のための少女の身売りも問題となった。

- (5) 浜口雄幸首相の狙撃事件が起こった背景を、「財政緊縮政策」という語句を用いて説明してみよう。

(例) 浜口内閣が財政緊縮政策を取っていたため、恐慌に対して有効な対策を打てず、海軍軍縮による軍部の反発や財閥の市場独占、政治家の汚職などで人々の不満が高まっていた。

本時のまとめ

◆ アメリカから始まった世界恐慌が、なぜ、日本の農村に大きな打撃を与えたのか、説明してみよう。

(例) アメリカ経済が不景気になったことで、アメリカへの生糸の輸出が途絶え、養蚕業が衰退して農家の収入が減り、加えて、北海道や東北地方では冷害もあり、食糧難に陥った。